

栗山町第6次総合計画 計画事業評価シート

政策分野	002	教育	政策項目	009	スポーツ	施策	030	生涯スポーツの推進	担当課	教育委員会事務局（教
------	-----	----	------	-----	------	----	-----	-----------	-----	------------

番号	計画事業名	区分	事業開始年度	事業終了年度
067	年齢や興味関心・技術技能に応じた生涯スポーツを推進します。	継続	平成27年度	平成34年度

	指標項目	基準値	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		指標設定の考え方
			計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	
活動指標	町主催体育事業の実施（単位：回）	4	4	4	4	5	4	4	4	0	基準値：H25
	各種体育団体への支援（単位：団体）	2	2	2	2	2	2	2	2	0	基準値：H25
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
成果指標	町主催体育事業への参加（単位：人）	220	200	253	200	374	200	190	200	0	基準値：H25
	各種体育団体への加盟（単位：人）	1,141	1,000	1,091	1,000	1,186	1,000	1,173	1,000	0	基準値：H25
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	

【担当課評価】

項目	判断基準
必要性	1. 目標設定が町民ニーズ等に合致している。課題解決のために不可欠な事業である。 町民の健康増進を軸として運動する機会の提供及びスポーツ団体の活動支援を通し、青少年の健全化と体育振興を図っているため必要と判断する。
妥当性	1. 公共性・公益性が高いことから、行政が主体的に実施すべき事業である。 指定管理者や総合型地域スポーツクラブが成熟すると民間移行は可能性があるが、収益が見込める可能性が低いため町が主体となりスポーツ習慣のきっかけ作りをする必要がある。
有効性	1. 目的を達成するための手段として有効であり、最適な実施方法である。 スポーツ推進委員による事業計画、指導が行われており適した方法で実施していると判断する。
効率性	2. 事業費コストに改善の余地がある。 さらなる運動機会を提供するためには、事業費が増えていくと判断する。
公平性	2. 特定属性の不特定多数の個人・団体を対象としている。 団体については加盟者となる町民を対象としており、地域全体の利益につながることから公平性が図られていると判断する。

項目	事業把握
前年度評価に対する改善内容	スポーツ推進委員や各関係団体（育成会、少年団、指定管理者、JC）と協力を行って実施している。
課題・問題点	人口減や家族での休日の過ごし方の変化により、以前より参加者が減っている。 団体支援の補助金などについては団体活動の必要経費が年々増えているため増額してほしいという要望がある。
改善策	少しでも多くの方がスポーツ（体を動かす）行事に参加するよう事業周知や事業内容を検討。 町民の健康増進の為に保健福祉課が行っている運動事業と連携を検討。 補助金の増額については、要望する声が多くなってきたときに検討する必要がある。

【総合評価】

区分	評価内容・指示事項
1次評価	1. 計画通りに進める スポーツ推進員や指定管理者、総合型スポーツクラブと連携し、年齢や技術のレベルに応じて、いつでもスポーツができる環境づくりの推進と、スポーツ団体の活動支援による競技力向上と青少年の健全育成など、スポーツの普及振興を図ること。また、総合型スポーツクラブとは、今後の方向性について引き続き検討すること。
	2次評価
外部評価	
最終評価	1. 計画通りに進める 二次評価と同様。

栗山町第6次総合計画 計画事業評価シート

政策分野	002	教育	政策項目	009	スポーツ	施策	030	生涯スポーツの推進	担当課	教育委員会事務局（教
------	-----	----	------	-----	------	----	-----	-----------	-----	------------

番号	計画事業名	区分	事業開始年度	事業終了年度
068	スポーツ合宿などの受入体制を整備します。	継続	平成27年度	平成34年度

	指標項目	基準値	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		指標設定の考え方
			計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	
活動指標	スポーツ合宿の受入（単位：件）	24	30	21	30	16	30	24	30	0	基準値：H25
	事業対象となる件数（単位：件）	2	10	2	10	3	10	0	10	0	基準値：H25 ※合宿記念品対象
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
成果指標	スポーツ合宿の受入（単位：人）	926	1,000	887	1,000	2,070	1,000	1,694	1,000	0	基準値：H25 ※延べ人数
	事業対象となる人数（単位：人）	73	200	47	200	89	200	0	200	0	基準値：H25
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	

【担当課評価】

項目	判断基準
必要性	2. 目標設定が町民ニーズ等に概ね合致している。課題解決のために必要な事業である。 合宿誘致による経済効果は人数によるが食事や宿泊など地域経済活性化の一端を担っている。
妥当性	2. 民間等が主体的に実施すべき事業であるが、現段階では行政で実施する必要がある。 ほとんどがNPO兩煙別学校と社会体育施設指定管理者が受入を行っている。 合宿者と町の接点がないため、指定管理のノウハウが蓄積されたときは民間の主体的な実施が望ましい。
有効性	2. 目的を達成するためには、別の手段も考えられるが、現段階では最善の方法である。 更なる合宿受入事業を拡大する場合は環境整備が必要（宿泊施設、社会体育施設）になる。
効率性	1. 事業費コスト及び人件費コストに見合った効果が期待でき、費用対効果が高い。 事業費、人件費無し。
公平性	1. 受益者負担が適正であり、特定の個人や団体に偏っていない。 合宿記念品該当者の町内施設利用は5割減免となっており利用促進を促しているため受益者負担は適正と判断する。

項目	事業把握
前年度評価に対する改善内容	合宿者からの問い合わせがあったときは、事前に利用団体と調整を行っている。
課題・問題点	芝関連の施設については、養生のため受け入れを断る又は制限している場合がある。 合宿申し込みが増加する大型連休や夏休みなどの期間の調整が困難である。 合宿記念品該当者が固定化されている。
改善策	合宿団体との調整については、関連施設・団体と協議の上、調整することとする。 合宿記念品の贈呈は、平成29年度より廃止する。

【総合評価】

区分	評価内容・指示事項
1次評価	1. 計画通りに進める 本年度より合宿記念品の贈呈を廃止したが、記念品の贈呈によって合宿件数が増えるものではない。今後とも施設の状況を勘案し、関連施設・団体等と協議の上、スポーツ合宿等の誘致を進めること。
	1. 計画通りに進める 一次評価と同様。
2次評価	1. 計画通りに進める 一次評価と同様。
	1. 計画通りに進める 二次評価と同様。
外部評価	
最終評価	1. 計画通りに進める 二次評価と同様。

栗山町第6次総合計画 計画事業評価シート

政策分野	002	教育	政策項目	009	スポーツ	施策	031	スポーツ施設の整備	担当課	教育委員会事務局（教
------	-----	----	------	-----	------	----	-----	-----------	-----	------------

番号	計画事業名	区分	事業開始年度	事業終了年度
069	老朽化した社会体育施設の改修などを計画的に行います。	継続	平成27年度	平成34年度

	指標項目	基準値	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		指標設定の考え方
			計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	
活動指標	施設改修数（単位：施設）	10	14	12	9	9	2	7	4	0	基準値：H25
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
成果指標	社会体育施設数（単位：施設）	16	16	16	16	16	16	16	16	0	基準値：H25 ※改修した施設数
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	

【担当課評価】

項目	判断基準
必要性	1. 目標設定が町民ニーズ等に合致している。課題解決のために不可欠な事業である。 安全にスポーツをするために必要と判断する。
妥当性	1. 公共性・公益性が高いことから、行政が主体的に実施すべき事業である。 公共施設のため、行政が主体的に実施する必要があると判断する。
有効性	2. 目的を達成するためには、別の手段も考えられるが、現段階では最善の方法である。 本来、早い時期に予防修繕として修繕をすることが望ましいが、予算の関係上、現段階では最善の計画と判断する。
効率性	3. 人件費コストに改善の余地がある。 事務職でできる内容の修繕はあるが、大規模な修繕など専門的知識が必要となる。技師が行うと人件費及び事業費のコストが軽減される可能性があるためと判断する。
公平性	1. 受益者負担が適正であり、特定の個人や団体に偏っていない。 公共施設の利用料金として利用料金を公平に負担していただいている。

項目	事業把握
前年度評価に対する改善内容	年度別に計画している改修事業の優先順位を整理することになっており、指定管理者と協議をしている。
課題・問題点	計画されている修繕については、実施年度の優先度等を勘案し、財政推計等の状況を踏まえて決定しているが、後回しになってしまった修繕箇所は年々悪化している。後期計画時は算定が難しくなる。
改善策	施設の現状把握と修繕箇所の把握について、専門家を配置する施設管理グループなど設置を検討することも一つの手段と考える。 □ 突発的な修繕が増えてくると予想されるため予算額を上げる必要がある。

【総合評価】

区分	評価内容・指示事項
1次評価	1. 計画通りに進める 体育施設の安全な活用を維持・継続させるため、改めて計画的な施設・設備の補修・改修について検討すること。
	4. 改善を検討（その他） 各施設における大規模な改修等については、町の管理施設全体としての調査方針に基づき調査を行ったうえで、優先順位を決めて具体的な実施方法を判断していく。スポーツセンターのトレーニングルームの機器更新については、平成30年度に指定管理者（指導者）や利用者の声を反映しながら方法を検討し、平成31年度以降の後期実施計画において実施すること。
外部評価	
最終評価	4. 改善を検討（その他） 二次評価に加え、平成30年度に追加計画している町民球場のスコアボードの塗装修繕は、細かい箇所まで点検したうえで実施すること。

栗山町第6次総合計画 計画事業評価シート

政策分野	002	教育	政策項目	009	スポーツ	施策	031	スポーツ施設の整備	担当課	教育委員会事務局（教
------	-----	----	------	-----	------	----	-----	-----------	-----	------------

番号	計画事業名	区分	事業開始年度	事業終了年度
070	ふじスポーツ広場の大規模な改修を検討します。	継続	平成27年度	平成34年度

	指標項目	基準値	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		指標設定の考え方
			計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	
活動 指標	基本計画、測量	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
	実施設計	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
	改修面数	2	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
成果 指標	改修施設数	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	

【担当課評価】

項目	判断基準
必要性	
妥当性	
有効性	
効率性	
公平性	

項目	事業把握
前年度評価に対する改善内容	
課題・問題点	
改善策	

【総合評価】

区分	評価内容・指示事項
1次評価	※評価対象外
2次評価	
外部評価	
最終評価	

栗山町第6次総合計画 計画事業評価シート

政策分野	002	教育	政策項目	009	スポーツ	施策	031	スポーツ施設の整備	担当課	教育委員会事務局（教
------	-----	----	------	-----	------	----	-----	-----------	-----	------------

番号	計画事業名	区分	事業開始年度	事業終了年度
071	栗山町スキー場の大規模な改修を検討します。	継続	平成27年度	平成34年度

	指標項目	基準値	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		指標設定の考え方
			計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	
活動指標	施設改修数（単位：施設）	1	1	1	1	1	1	1	1	0	基準値：H25
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
成果指標	施設数（単位：施設）	1	1	1	1	1	1	1	1	0	基準値：H25 ※改修した施設数
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	

【担当課評価】

項目	判断基準
必要性	1. 目標設定が町民ニーズ等に合致している。課題解決のために不可欠な事業である。 安全にスポーツをするために必要と判断する。
妥当性	1. 公共性・公益性が高いことから、行政が主体的に実施すべき事業である。 公共施設のため、行政が主体的に実施する必要があると判断する。
有効性	1. 目的を達成するための手段として有効であり、最適な実施方法である。 最適な実施方法である。
効率性	1. 事業費コスト及び人件費コストに見合った効果が期待でき、費用対効果が高い。 余地はない。
公平性	1. 受益者負担が適正であり、特定の個人や団体に偏っていない。 公共施設の利用料金として利用料金を公平に負担していただいている。

項目	事業把握
前年度評価に対する改善内容	特に関係団体と協議を行っていない。
課題・問題点	老朽化施設であることから、毎年修繕箇所が突発的に発生してくる事が予想される。 リフトの老朽化について把握ができていないことから現状把握のための設備検査が必要である。
改善策	次年度及び後期計画に向けて、リフト整備の把握するための検査予算を要求する必要がある。

【総合評価】

区分	評価内容・指示事項
1次評価	5. 抜本的見直し リフトが利用可能な時期までは修繕しつつ利用することとなるが、リフトは昭和48年に設置以来44年が経過し、限界を迎えつつあるため、老朽度調査を行うことが必要と考える。調査の結果によっては今後、スキー場の存続について、関係者と協議しながら英断（リフトの新設あるいはスキー場の廃止）を下す必要がある。
	4. 改善を検討（その他） 老朽化対策の判断が急がれるリフトについては平成30年度に維持の可否に関する具体的な調査（例年の点検に留まらず）を行うほか、コンサルティングや町民組織も入れながら、スキー場の利活用方法も含めて存続の可能性や廃止した場合の影響など、経費以外の判断材料も揃えながら検討を進めること。
外部評価	
最終評価	4. 改善を検討（その他） 二次評価に加え、リフトなどの施設は可能な限り延命化を図りながら、各種ウインタースポーツ大会の開催や、市街地を見下ろす眺望を生かした夏期の利用、ロッジ施設の活用など、アイデアを捻出して利用促進を図ること。栗山スキー連盟とも協議しながら進めること。